

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

「用語の定義」項目からの 出題傾向一覧(平成9年～28年度)			考察
小項目	H9～H20年 度問題コード	H21～H28 年度	
建築物		24013	何故、「一発逆転模試は的中するのか？」について説明させていただきます。ご存知の通り、学科試験の試験範囲は非常に膨大です。ただし、出題される問題数は、計画20問×4選択肢＝80選択肢、環境・設備20問×4選択肢＝80選択肢、法規30問×4選択肢＝120選択肢、構造30問×4選択肢＝120選択肢、施工25問×4選択肢＝100選択肢、となります。これを1問1答式で考えると、 かなり絞られた問題数 でしか受験生を試すことができない、という絶対的なルールが存在し、それぞれが学科試験を攻略する上での最大のポイントであることがわかります。尚、1教科は、約30程度の項目に分類することができます。左側の表には、法規科目の「用語の定義」という項目における直近20年分の過去問題の出題傾向を一覧化したものです。「用語の定義」という項目は、「建築物」、「特殊建築物」、「建築設備」といった小項目にさらに区分されます。
	19014		
	10014		
	13011		
特殊建築物	09011	25011 28014	話は変わりますが、これまでの過去問題を1問1答式に直し、それらを全てデータベース化した上で多角的に検証を繰り返し続けたところ、ある法則が見えてきました。それを分かり易く説明しますと、この学科試験に合格するために 必要となる知識 がある項目(例:用語の定義)において、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5つあったとします。そのうち、ある年に、「C」について出題されたとしましょう。その翌年には、「A」が出題されたとします。すると、さらに次の年には、「B」、「D」、「E」のうちのいずれかが出題されます。仮に、「B」が出題されたとしたら、その次には、「D」か「E」のうちのどちらかが出題される可能性が高くなるわけです。ちなみに、新問題として、「F」という知識が出題された場合には、学科試験合格のために 必要となる知識は 、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」の6つに増えます。皆さんも、「効率よく学科試験を合格するためには、過去問題をマスターすればよい」という話をしばしば耳にしてきたと思いますが、その最大の理由は、過去問題をマスターすることによって、先に述べた合格するために 必要となる知識 (「A」、「B」、「C」、「D」、「E」、「F」)を最も効率的に、かつ、短時間で把握することができるからです。
	14011	22011	
	11011		
	18013		
	15014		
	16011		
建築設備	15012	22012	また、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」のうち、とりわけ、「B」の知識が重要で、「E」の知識がさほど重要でないものである場合には、当然、「E」に比べて「B」の方の出題頻度が増えます。場合によっては、連続して出題されることもあります。これまで私達が検証し続けてきた結果、 直近20年分の過去問題をマスター することで、 合格に必要な知識を完全に抑えられる ということも判明しております。そのためウラ指導では、学科試験攻略法として、20年分の過去問題をマスターすることを推奨してきました。ゆえに、この分析表においても、20年分の出題傾向を一覧表化してあります。
	14015	28013	
	19013		
	11012		
	09013		
居室	12012	28011	
主要構造部	20014		「一発逆転模試」では、これまでの出題傾向を徹底して分析した上で問題を作成しておりますので、過去問題を完全にマスターしきれていない方であっても当然、ピンポイントな学習効果を得ることが可能です。左記の一覧表では、学科試験問題の過去問題を四肢択一ではなく各選択肢毎に、1問1答化し、全て5桁のコード表示により扱っています。はじめの2桁が「年度」、次の2桁が「問題番号」、最後の1桁が「何番目の選択肢か」を表します。 例:平成25年8問目3番目の選択肢の場合→コード25083
	13014		
	10012		
延焼のおそれのある部分	12015	21013	また、出題傾向の分析においては、H9～H20年までと、H21年以降を区分しています。
	20075	23013	
	18014	26011	
設計図書	13015		
	10011		
建築	19015		
	11014		
	15011		
大規模の修繕	20012	23014	
	12014		
工事施工	19012		
	12013		
	13013		
敷地	12013		

ウラ指導の一発逆転模試が的中する理由

地階	11015 20011	26024 28051	<p>左記の一覧表において、例えば、「延焼のおそれのある部分」という小項目について出題された問題は、問題コード「12015」、「20075」、「18014」、「21013」、「23013」、「26011」の6問であることが読み取れます。</p> <p>また、「地階」について出題された問題は、問題コード「11015」、「20011」、「26024」、「28051」の4問です。いずれも近年頻出していることが分かります。</p> <p>一方、近年出題されていない項目については、そろそろ出題される頃合いという考えもできます。このように、各問題毎の重要度判定や出題予測をすることができます。</p> <p>尚、近年に出題されている問題の類似元となっている問題については、黄色で色付けしております。</p> <p>また、直近8年に出題されている小項目には、水色で色付けしております。</p> <p>以上のような分析をもとに、各教科ごと、各項目ごと毎年、分析・検証を繰り返し、さらに、各種法改正状況や、「省エネ基準」、「建築の地震PML評価」、「既存改修」、「建築物の解体等(改修)に伴う有害物質等の適切な取り扱い」などといった新問題対策問題を加味した上で作成されている模試がウラ指導の一発逆転模試です。毎年、一発逆転模試の的中率が高くなる理由がここにあります。</p>
構造耐力上主要な部分	15015 11013	23011	
耐水材料	13012 16012 10013		
避難階	14014	21011	
防煙壁	20013	25012	
構造		22013 23012	
プログラ		24012	
特定天井		27012	